

## JACTFL 次期 10 年の未来図 JACTFL, a future plan for the next 10 years

山下 誠 YAMASHITA Makoto<sup>1</sup>

### 1. はじめに

私が偶然の糸に手繰り寄せられるように、設立発起人として関わることになった JACTFL が 10 年の節目を迎えるとのこと。その糸は、その後多くの人との出会いによって織り上げられ、望外の成果を編み出してきたことを思うにつけ、私個人としても感無量の極みです。

### 2. JACTFL 前史－「外国語学習のめやす」に関わったが百年目

今から 15 年前、JAKEHS<sup>2</sup> 全国大会を主管することになった関東地区の会員の間では、ネットワークが発足から 8 年になろうとするのに、授業研究が一向に進まないことに危機感を抱く声がありました。そこで、周到な現況調査を行ったり、英語教育における先進的な知見も取り入れたプログラムを立て、研修会に臨みました。結果、会員の反応はおおむね好評で、私たち自身も手応えを感じていました。さすれば次なるステップは如何、と考え始めたところに、中野さんからの誘いが舞い込んだのです。

2006 年の松の内も明けやらぬ冬空のなか、当時まだ新宿にあった TJF 事務所に出向くと、文科省の何とやらという委託事業に参画することになった、それも韓国語と中国語合同で、というのでした。やたらに性急で雲をつかむような話ではと、一抹の不安を感じつつも、一方で、既存の枠組みから一歩抜け出しあぐねていた自分には、その大言壮語が妙にツボに入った感覚がありました。こうして私は、「外国語学習のめやすプロジェクト」に飲み込まれ、爾来 6 年間、現状打破を目論んでいた自分自身こそが打破され、更新されていくという怒涛の日々を送ることになりました。足元の授業づくりさえできていないと憂いていた私は、最新の能力論や教授理論の洗礼を受け、自分が実は目の前の授業づくりしか見えていなかったことに気づかされたのです。かくして、「外国語学習のめやす」は 2012 年春にお披露目の日を迎え、ようやく肩の荷

<sup>1</sup> 所属：神奈川県立麻生総合高等学校 Asao-Sogo Senior High School

<sup>2</sup> 高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク Japan Association for Korean-language Education at High School 1999 年創立

が下りたと思いきや、今度は水口さんからの連絡。今度は一体何の大言が飛び出すかと思えば、JACTFL の設立発起人にならないかというのです。果たして、いつのまにか乗ってしまっていた船から降りる術もなく、當作先生筆頭に蒼々たる大学の面々が居並ぶ末座にたった一人、高校教員の私が名を連ねることになったのです。

### 3. JACTFL 出帆－「複言語主義」の道場

JACTFL 本流の活動ではありませんが、私は翌 2013 年から、日本言語政策学会の多言語教育研究会に参画し、高校における複数外国語必修化提言<sup>3</sup>なるものを上梓しました。学習指導要領案も備えた現実的なものとの自負はあった一方、実現可能性は限りなく低いという現実は何ともしがたく、初版本を前に、自分も一人前の大言を並べるようになったものだなと、内心可笑しく思ったものです。

そんな折、新学習指導要領の公示を前にして、画期的な中教審答申<sup>4</sup>が出ました。「英語以外の外国語教育の必要性を明確にする必要がある」とし、翌年にはカリキュラム開発等の支援が事業化されたのです。これは、JACTFL 中核メンバーの吉田先生と文科省圓入さんの協業のなせる業であり、JACTFL10 年間で最大の成果のひとつといえるでしょう。必修化云々は導きの星としつつ、高校において多言語教育を実現するための、大きな一歩となることは間違いありません。私は、その事業に境さんはじめ慶應義塾大学外国語教育研究センターの方々とともに参画、今年で7年目を迎えます。この間、学習指導要領を複言語主義の視点から徹底的に洗い直す過程は修行にも似て平坦ではありませんでしたが、今ようやく次の道筋が見えてきました。

### 4. JACTFL 第二の 10 年期－大言実現の時

HP をみると、JACTFL が「特に高等学校における多様な外国語教育の普及を制度的に推進する」という「積年の課題」の解決を「現実のものとする」為に設立されたとなっています。私たちは、10 年後に何をどれだけかたちにしようとするのかを明らかにしたうえで、そこからバックワードしていつ何をすべきなのかを見極めながら、大言を実現させる時が来たのです。

<sup>3</sup> 森住衛，古石篤子，杉谷眞佐子，長谷川由紀子・編（2016）『外国語教育は英語だけでいいのか：グローバル社会は多言語だ』くろしお出版社。

<sup>4</sup> 文部科学省（2016）『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第 197 号）』